

40周年企画 部会活動

研修部のあゆみ

— 2011年度から2013年度 —

藤原 純子

I. はじめに

研修部は研修会・勉強会の開催をはじめとする活動を通して、近畿病院図書室協議会（以下、病図協）の目的のひとつである会員の教育研修活動を担っている。今回「病院図書館」発刊40周年を機に、2011年からのあゆみを振り返る。

II. 研修会

研修部では、原則として研修会を年2~3回、総会と同時開催の事例・研究報告会を年1回、その他に勉強会を年2~3回開催してきた。

研修会のテーマは、電子書籍元年といわれた2010年から病院における電子ジャーナルの普及がより進んだことで、オンラインリソースやデータベースを取り上げることが多かった。会場は会員施設をお借りすることが多く、従来行っている「医学の基礎知識」の講義も会場館の医師を講師としてお迎えすることができた。ご自身の研究やご専門のほか、利用者としての立場からの講義は非常に参考になった。今後も継続して利用者である医療従事者からの講義を取り入れていきたい。

事例研究報告会での演題も、電子ジャーナル化の報告が特に目立ったが、毎回ユニークで実務に直結する内容の発表に恵まれた。今後もさまざまな工夫や研究報告を期待したい。

III. 勉強会

勉強会はこの3年、毎年1回新任者向けに開

催した。内容はPCスキルや検索データベースを使った実習形式で行った。

近年、病院図書館担当者の入れ替わりが多く、新任者勉強会は毎年多くの会員に参加いただいている。勉強会講師はこれまで研修部員で担当してきたが、2011年からは事務局長に、2013年からは目録サポートチームにも講義を担当していただき、年々内容が充実していると感じている。今後も新任者と病図協をつなぐ第一歩としての役割を果たし、より現状に即した講義ができるよう内容を刷新していきたい。

IV. 共催シンポジウム

日本医学図書館協会近畿地区会、日本薬学図書館協議会近畿・中国・四国地区協議会との実務者研修会を2回、共催シンポジウムを1回開催した。毎回病図協から実行委員を派遣して協力している。実務者研修会については、電子リソースのリニューアルや相互貸借といった病院図書館にも特に関わりの深い内容で、多くの参加があった。著作権に関するシンポジウムも、現在の状況を反映した講義と討論がなされ、参加者に好評であった。毎回病図協からの参加者は多く、大学図書館との交流の場となっている。

V. その他の活動

2011年度より研修会参加助成を開始した。遠方の会員でも参加しやすいように、交通費片道5,000円以上の会員に上限30,000円までの助成を行っている。2013年からは日本医学図書館協会の基礎研修会参加にも同様に助成を行ってお

り、遠方の会員に利用していただいた。助成を受けられた方には会誌「病院図書館」への参加記や原稿の執筆を担当していただいております、研修部としても参加者側からの感想は大変参考になるので今後も継続し、多くの会員に申請いただきたい。

VI. おわりに

2011年からの3年間は、研修部にとって大きな変化の年であった。2011年に長年研修部長および部員を務められてきた林伴子氏（元社会保険神戸中央病院）が定年退職され、研修部員の経験年数が大幅に下がった。当時は大きな拠り

所を失い、不安とプレッシャーを感じていたが、こうして振り返ってみると、その時々に応じたテーマで開催回数も減らすことなく活動できている。2012年は部長の産休・育休にともない、増田徹事務局長（藍野大学中央図書館）に研修部長を兼務いただいた。兼務いただいた事務局長と多忙な中ともに企画や運営に協力してくれた部員に、また周りで支えてくださった幹事および参加者のみなさまに感謝している。2013年からは研修部員も定着し、毎回の経験や反省を生かしながら活動できるようになってきている。今後はさらに充実した内容で計画的な研修企画を行いたい。